



博物館の使命と役割

松本 五三

岐阜県は、全国的にも類をみない博物館類似施設等の数の多い県であると言われています。

1989年3月現在、岐阜県博物館協会に加入登録されている館及び園は100館余りありますが、協会に加入されていない類似施設館は、かなりまだ多いと思われます。

近年村起し、町起し運動が盛んでそのことも含めて、まだ館の数が増加されつつあることは確かですが、館の数が多いということは、陳列品つまり「見せる品物」が多いということでもあると思います。しかし、館並びに陳列品の数だけが自慢であってはならず、いかに見学者に感動を与えるかということであり、陳列品に対しての貴重な文化財であることと、素晴らしい美術品であることを知ってもらうことこそ、見学者が価値観を認め感動するのであり、いつまでも脳裏に残る品物になることと思われます。それには設置者が研究し、説明または説明書を呈示することが必要であると思われます。

煌々^{かがや}美術品だけが貴重な文化財でなく古い先人の使用した手造りの民具にも、また自然のなかで長い年月を保たれていた品物にしても、見学者に心込めての説明をすることによって深く知識と理解が得られるのであると思われます。博物館等に入館される人々のなかに70%程は陳列品等に対して、深く知識と理解が得られない方が入館されていると言われています。

特に、その村、その町の、地域において使用された歴史、民俗、民具が古の人々の生活を語り、訴える、そのことが、その村、その町の地域文化に対する関心を高め、その地域の紹介することに役立つと思われます。

平成2年10月17日より11月18日まで岐阜県博物館において特別展「濃飛の仏像」が展示されました。10月28日、博物館主催、県博物館協会共催にて、公開講座の企画を戴き、講演の演題「日本の仏像の魅力」と題して、成城短期大学清水眞澄学長先生の講演を賜り、仏像の魅力に心より接し、満場の参加者は感動に満ちて、仏像展示会場を見学いたしました。また、展示仏像に対し博物館の学芸員の先生より丹念なる説明をいただきました。見学者のうちには仏像に手を合わせて感銘して聞き入ってみえる方が幾人か目にいたしました。満足に満ちての見学者の姿を目に止めて、博物館の果すべき使命と役割を実践していると、感動に満ちた1日でした。

施設館はただ品物を陳列してあるだけでは入館者の方に深い感動を与えないと思われます。施設館員は社会教育の一環を担うためにも勉強し研究をすることが必要であり、入館者に対してのサービスであると思います。

博物館類似施設館等は、ただ陳列しているだけでは村起し、町起しの活性化に資し難いと思われれます。

「岐阜県博物館協会」は昭和41年6月26日に発足いたし、県内の博物館やその類似施設館等館園及び会員とから構成されていて、機関紙「岐阜の博物館」年4回発行、会員研修会年3回、公開講座年4回を各地区を会場として開催し、博物館活動の充実と発展を図り、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与するために上記の勉強と研修に邁進しています。会員以外の皆様の御参加を心より望みます。

(岐阜県博物館協会理事長)

箆笥資料館

〒502 岐阜市長良西野前2の2

TEL (0582) 32-0203



金華山を間近に望む、岐阜市長良西野前に、
たす
箆笥だけを展示した「箆笥資料館」が平成2年
秋、開館した。箆笥を展示の中心にした博物館
は全国でも初めてであり、家具や博物館などの
関係者だけでなく、広く反響を呼び関心を集め
ている。

設立したのは、桐箆笥製造業を営む馬淵弘美
さん。建物は、尾張徳川藩に出入りを許された富
田家の子孫が大正末から昭和にかけて建てた、
旧大名様式の伝統的な木造建築物である。3年
程前に解体されることを知った馬淵さんが、釘
を使用しない完成された様式美を誇る同建物の
消失を惜しみ、移築復元した。名も残さなかつ
た職人たちの卓越した技術が随所に発揮され、
重厚な趣を醸しだす館内には、京都・桂離宮と
同じ「残月亭」という造りの床の間もあり、こ
の建築物自体が現在では貴重な文化的遺産とい
える。

自ら箆笥の伝統的技術「京都指し物」の習得
者である馬淵さんが、30年の長きにわたり、
全国は言うに及ばず、日本箆笥の源流の地とい
われる朝鮮半島にまで足をのばして収集した資
料は現在120点あまり。館ではその中から、展
示替えを行い、常時約60点を陳列している。

展示される箆笥はいずれも、民俗的価値、美
術的に高いものばかりで、何百年にもわたる使
用に耐えてきた渋みを持っている。展示品は日
本箆笥と朝鮮・李朝時代(1392~1910年)の
箆笥が多い。李朝様式の箆笥の外面には、いた
るところ美しい彫金が施されている。パンダチ
といわれる前扉の奥に引き出しが付き、衣類や
仏具などを入れていたようである。李朝時代の
木工技術と金工技術の高さには、目を見張るも
のがあり、観る者の溜め息を誘う。日本箆笥は
近世以降生産力の向上による所有物の多量化と
技術的な進歩が相俟^まって生まれてきたものであ
る。どれをとっても生活感あふれるものばかり
である。

プラスチックや合板をふんだんに使った、大
量生産による味わいのない箆笥や家屋が主流を
占める現代社会に、耐久性よりもデザインと合
理性を優先させる風潮に、警鐘を鳴らす意味で
箆笥資料館を設立した、と話される馬淵さん。
日本の風土のなかで培われてきた、木という素
材の持つ素晴らしさと調和のとれた伝統技術を、
建物と内部にある古箆笥を通じて再認識するこ
とができ、大量生産・大量消費の現代文明をい
ま一度考えてみる絶好の機会となりうる資料館
である。

見学には、電話予約が必要で、日曜日・祝日
のみ公開されている。また公開日の午後2時か
らは、馬淵さんが、自身の木工芸に対する思い
や現代消費社会にたいする批判を中心にすえた
談話会も行なっている。



やなか三館

◎ 奥美濃おもだか家民芸館

〒 501-42

郡上郡八幡町新町 929

TEL 05756-5-3332

◎ 水野政雄アートギャラリー 遊童館

〒 501-42

郡上郡八幡町稲荷町

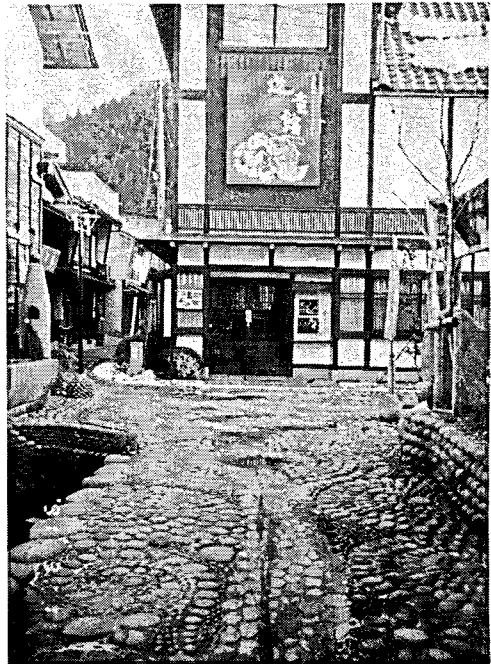
TEL 05756-5-3274

◎ 斉藤美術館

〒 501-42

郡上郡八幡町新町 927

TEL 05756-5-3539



▲ やなか水のこみち

〈街歩きが一層楽しくなる春、郡上八幡〉
『やなかスクエア』を、散策してみませんか。
やなか三館を紹介します。

奥美濃おもだか家民芸館、水野政雄アートギャラリー遊童館、斉藤美術館。

長良川鉄道八幡駅より歩いて20分。商店街の並ぶ一番の目抜き通り新町の中心に位置する古い格子造りで八幡の面影を残す建物が『奥美濃おもだか家民芸館』。

おもだか家の玄関に入ると、当時の様式である大きな吹き抜きがあり、ずっと奥に入ると土蔵があります。先代、柳さんがコレクションした沢山の民具が陳列してあります。

昔の生活を想像させ、心引かれます。

中でも絶対に見のがせないのが「柳人記念室」。

鮎を描いたら世界一と言われた柳さんの鮎の絵や、素描、絵日記、画帖、愛用された机、硯などが展示してあります。

土蔵の前の長いすに座り、お庭をながめながら出されたお茶を頂きますと、心安らぎます。

入館料250円、年中無休、開館時間午前9時～午後7時。

おもだか家を出ますとすぐ横が、やなか水の

こみち。自然の石をしきつめた石畳、水舟の天然ミネラルウォーターを口にして、せせらぎの水音を耳にしながら、ぶらり歩くと、すぐ目の前は『水野政雄アートギャラリー遊童館』。中に入るとすぐ目に入るのは二百余の郡上踊りの人形、水野さんの手作りで一つ一つ顔の表情も違い、思わず見入ります。

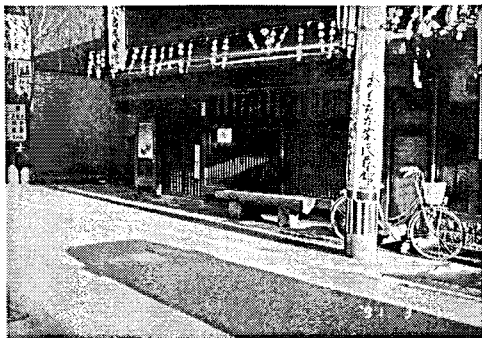
又、木の枝を使ったかわいい木ポックリは森の中にとけ込めるようで、夢があり、とても楽しい空間となっています。

その他1階は、水野さんの講習ビデオがかけられて、いつでも皆さんが切り紙体験できるようになっております。水野さんが館におられる時は、いつでも実演して下さい、その作品が頂けます。

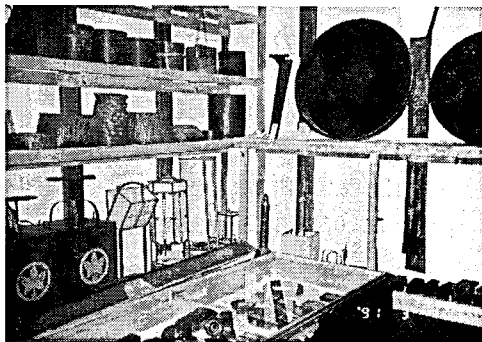
2階に上りますと、郡上藩青山公の大名行列、八幡神社の大神楽、郡上紬の織屋、ここでも一つ一つが精密に作られており、すばらしく、思わず歓声を上げます。

3階に上ると、水野さんが描かれた油絵、水彩画、数々の本を出された、はり絵の原画などが展示してあります。

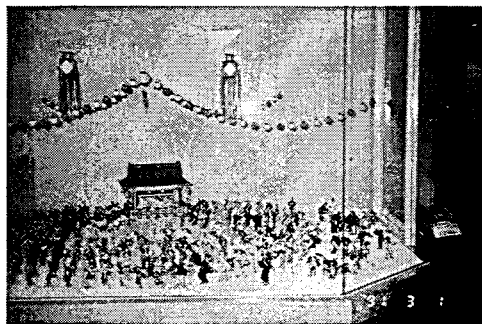
入館料300円、木曜日休館、開館時間 午前



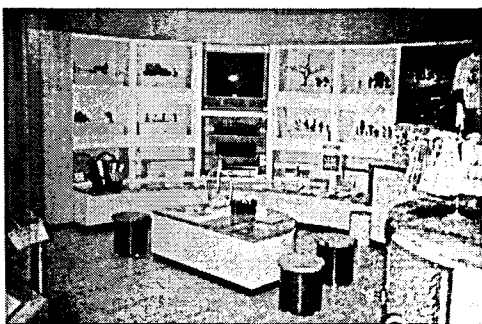
▲ おもだか家民芸館展示風景



▲ おもだか家



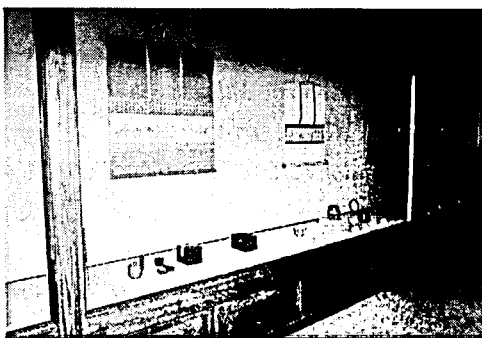
▲ 遊童館 1階展示風景



▲ 遊童館 1階展示風景



▲ 斉藤美術館



▲ 斉藤美術館展示風景

10時～午後5時。

遊童館を出ますとすぐ右横が『斉藤美術館』。

斉藤家が、江戸時代以来270年にわたり、茶人として、代々、収集愛用してきました書画、茶道具、美術工芸品を、常設展示室、蔵展示室に展示してあります。

お茶室、お庭には神秘的な音色の水琴窟すいじんくつもあります。水琴窟とのジョイントコンサート、ミュージアムコンサートも年4回行なっております。又、特別展示室は、多くの方々に自由にご利用頂けるように、毎月展示物が変わります。

なお、常設展示室は、3月より展示替えいたしました。

入館料300円、木曜日休館、開館時間午前9時～午後5時。

以上『やなかスクエア水のこみち三館』の紹介でした。

それぞれ違った魅力を持っています。

この程、やなか三館セットの入館券を発売することになりました。700円です。どうぞご利用下さい。
(斉藤尚子)

〈実践報告〉

「星のふる里」の観光施設

岐阜県揖斐郡藤橋村鶴見

藤橋城（西美濃プラネタリウム）

小栗章孝

平成元年10月、揖斐川上流に杉原砦の再興として「藤橋城」が建設された。

過疎の村が生き残りを観光にかける意気込みが明確な形となって現れたものである。

地方自治体による築城が最近増えつつあることから一部にはその是非を論ずる向きもあるようだが、この藤橋城は非常に個性的であり、3層4階の城内に「西美濃プラネタリウム」を持つという全国的に見ても他に1件しかない珍しいものである。

都市部の科学館などのプラネタリウムは科学博物館の設備として当然の物ともいえるが、あえて山奥の村に作った理由は、藤橋村を「星のふる里」としても知ってもらいたいと考えているためである。

近年の宇宙ブームとは裏腹に多くの都市周辺地域では都市化の波にさらされ、星を見ることが年々困難な状況になりつつある。このような中で、藤橋村は岐阜市や大垣市から車で1時間程の距離にありながら、素晴らしい星を望むことができる場所として貴重な自然環境が保全されているのである。

勿論、星は夜でなければ殆ど見えないので観光資源としては不利な面はあるが、科学技術の力は昼でも星を見ることが可能にした。それが即ちプラネタリウムなのである。人工の星とはいえ、それなりの臨場感は十分に味わえ、星空の縮尺模型の展示だと考えても差し支えないであろう。

当館では科学館などの純然たる学習施設とは異なり、観光施設であることから番組制作上一面の困難はあるが、幼児からお年寄りまで広い範囲の入館者に対して星空と接する機会を提供する事で、生涯学習施設、社会教育施設として

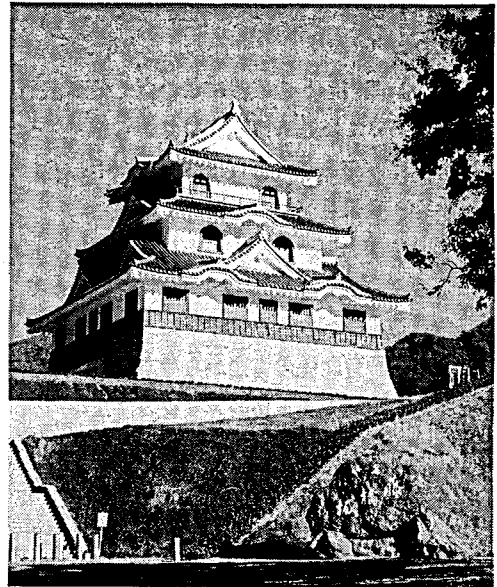
の機能を十分に発揮していると思っている。

投映を見たその晩、家へ帰って夜空を見上げると頭上にはそれまで気にも留めなかった星々が、星座や星の名を知ることによって少しでも身近なものとして感じてもらえるように、日ごと夜ごとの月や星を話題にしている。

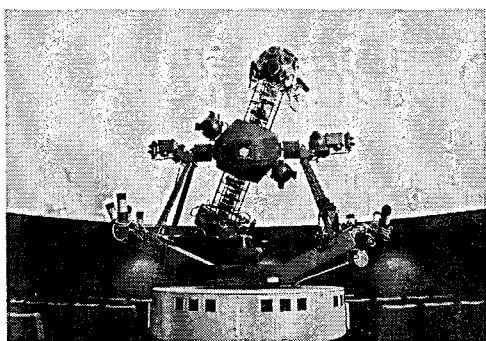
投映はすべて手動であり、職員が解説しながら自主制作の番組を進める形式なので、その場に応じて自在に対処できる事も特色の一つと言えるだろう。また、任意の時刻の星空、地球上のあらゆる場所の星空を投映できる機能は天文教育用として大変有効である。

しかし、重要視しているのは教育よりもむしろ心身のリラックスである。これがある程度成功していることは入館者の心地よさそうな寝息が物語ってくれる。

12月から3月まで積雪のため冬季休館をしているため開館しているのは1年の $\frac{2}{3}$ に過ぎな



藤橋城



西美濃天文台

いが、開館以来平成2年末までに約8万人の入館者を数えている。

博物館の観光施設化について本誌No.92の記事を拝見したが、当館ではまさにレクリエーション施設として広く開かれた「くつろぎ」の場、そして「知的刺激」を与える場となるよう心がけているところである。

平成2年5月には80名が収容できる集団宿泊研修施設「ふじはし星の家」が整備され、同年8月には国内最大級の60cm反射望遠鏡および20cm屈折望遠鏡を備えた「西美濃天文台」も完成して、藤橋村は「星のふる里」として益々充実してきた。

(藤橋村教育委員会)

第47回公開講座報告

自然と共に生きるよろこび

— 昆虫楽へのお誘い —

とき 平成3年2月5日

ところ 岐阜市科学館

講師 名和昆虫博物館

名和 哲夫氏

本年度第4回(最終回)公開講座を、岐阜市科学館の全面的な協力により、講演と同館の常設展示及びプラネタリウム見学という内容で実施した。

今回の講演内容が今までにない自然分野ということもあって関心も高く、早くから事務局への参加申込みがあり、当日は岐阜市を中心として52名の参加者があって盛会であった。

講師の名和先生は、導入にあたって参加者に昆虫の足の数を尋ねられ、昆虫の定義は足が6本であることを話された後本題に入られた。

先生は、教育関係の書物から神奈川県の小学生が授業の過程で4本足のチョウの存在を指摘したという記事を読み、タテハチョウ科に限って4本足であることを知っていたので、早速標本を調べてみたところ、タテハチョウ科以外にもテングチョウ科の雄とマダラチョウ科、ジャノメチョウ科のチョウが4本足であることがわ

かった。

では、なぜ4本足なのか。先生は、この疑問に対して、前脚2本が退化したのではないかという仮説のもとに観察、実験を繰り返し、立証していくという手順を逐次資料を配布しながら講演を進められた。

多くの啓蒙書では、チョウの前脚が感覚器官であり、前脚が退化いしやく萎縮した理由として「感覚器官として発達した」かのように説明しているが、今回の実験からは、むしろ殆どのチョウの脚に感覚器官があり、退化萎縮した脚のみが感覚器官としての機能をはたしていないことがわかった。

では、なぜ退化萎縮したのだろう。



次の仮説として、羽化する前の状態に関係があるのではないか。6本足のチョウの蛹の状態は頭が上に位置する「帯蛹」であること。それに対して、4本足のチョウの場合は頭が下になる「垂蛹」であること。このことから「帯蛹」のチョウは羽化に際して前脚で強く踏ん張り殻から抜け出る。「垂蛹」の場合のチョウは自らの体重で身体が容易に殻から抜け出ることができるので前脚の役割が必要でなくなり、退化萎縮したのではないか。では「垂蛹」のチョウの蛹を無理やり「帯蛹」の状態にしてやればどうなるだろうか。

実験の結果は予想に反して80%以上が羽化に成功してしまい、仮説が成り立たないと思われた。しかし、羽化に必要な時間は正常の場合と比較すると長時間かかり、このことから現在

では次のように考えている。

「チョウの前脚の役割は、中脚や後脚とは違うものを持っている。それは、羽化脱出するときに体を速やかに引き出すことである。ところが頭が上向きの帯蛹に対して、頭が下向きの垂蛹へと蛹のパターンを変えた種類にとっては、その前脚の特殊な役割はなくなり、歩行器官、感覚器官としての働きも他の部分でまかなえるなどのことから、前脚が存在する必要性が大きく薄れたため、退化萎縮の方向へと進んだ。」

概略以上のように話されたあと、常識とされていることが案外そうではないこと。私たちは今回のように、身近な自然の中にも常識に対する疑問から研究を進めていく、そういう素材を数多く見出すことができることを強調されて講演を終了された。

日本博物館協会加入のすすめ

協会事務局に財団法人日本博物館協会加入についての問い合わせがありました。日本博物館協会から、要覧が送付されてきましたので、その抜粋を紹介します。

日本博物館協会

当協会は昭和3年昭和天皇即位大礼の記念事業として、男爵平山成信氏ら学界・政界・財界から代表22名によって、博物館事業促進会として設立されました。その後昭和6年日本博物館協会と名称を変更し、昭和15年文部省の許可を得て社団法人となり、さらに昭和61年に財団法人に改組し現在に至っております。

目的

当協会は、青少年及び成人に対する社会教育の進展の一環として、博物館のための調査・研究開発並びに指導・援助を行い、もって我が国の文化の発展に寄与することを目的として活動しています。

活動

〈調査研究事業〉

国内博物館調査 博物館の管理運営に資するため、時宜に適した問題について調査・分析。例、「博物館問題意識調査」「付帯事業調査」

「利用者・博物館資料等調査」「ボランティア実態調査」「博物館実態調査」

海外博物館調査 世界的視野に立って博物館を管理運営するため、欧米の代表的博物館を訪問し、研究討議を行う。

博物館白書刊行 数年間隔で、日本の博物館の現状について実態調査を行い、その内容を分析・考察の上発表。

〈指導・助成・援助事業〉

全国博物館大会 毎年1回全国各地の主たる博物館を会場にしてシンポジウム・講演会・分科会・博物館功労者及び棚橋賞の表彰等の実施。

各種研修会

- 歴史・美術・自然史・理工・動水植の博物館の館種別に、主に学芸員を対象に実施。
- 博物館の運営管理に関する諸問題を研究協議

するため、庶務担当者を対象に実施。

○博物館の初任者を対象に基礎的知識の講義の実施。

○法律・行政・財政・運営等に関する問題について博物館の館長職者を対象に実施。

コンサルタント 博物館の建設、改築、増築に伴う展示基本構想から展示設計までの指導。常設展・特別展等に対する指導助言。

博物館整備活動 博物館利用者の快適な環境作りのため苗木・クリーンボックス・車イス・灰皿などの配布。

展示技術の研究開発 博物館資料保存及び効果的展示方法開発等のため専門家・専門機関と連携して研究開発を実施。

〈展示資料作製事業〉

土器・埴輪・仏像等の考古資料、ナウマン象・オオツノシカ等の自然史資料及び美術・歴史資料等の複製製作を行うとともに、製作方法について研究開発を実施。

〈普及・啓発事業〉

機関誌「博物館研究」の発行（月刊）。

全国博物館総覧等の刊行。

新聞・雑誌・放送等による広報。

NHKラジオ放送による特別展等の紹介。

〈国際交流事業〉

国際博物館会議（通称 ICOM）事務局の設置。

ICOMを通じて博物館の国際交流を計り、国際会議等の参加・援助。

その他海外の博物館との交流による情報交換。

会員制度

当協会は、維持会員と賛助会員から構成されています。

〈維持会員〉

○博物館に関係する団体又は個人であって、当協会の目的に賛同して会費を納入し、理事会で承認されたもの。

○維持会員は、「全国博物館会議」を組織し、当協会の行う諸事業に参画することができる。

〈賛助会員〉

○賛助会員は、当協会の目的に賛同し賛助会費

を納入、若しくは金品を寄附する個人又は団体。

※日本博物館協会加入についての詳しい問い合わせは事務局までご連絡下さい。

新入館・園紹介

◎糸貫町民俗文化財収蔵館

本巣郡糸貫町三橋 1101-

TEL 0583-23-1161

代表 教育長 山田 正 堅

開館 S. 47. 11. 3

◎中津川市苗木遠山史料館

中津川市苗木 2897 番地の 2

TEL 0573-66-8181

代表 安池 俊 介

開館 H. 2. 11. 3

◎奥美濃おもだか家民芸館

郡上郡八幡町新町 929

TEL 05756-5-3332

代表 水野 隆 三

開館 S. 44. 6. 15

◎遊童館

郡上郡八幡町稲荷町

TEL 05756-5-3274

代表 水野 政 雄

開館 H. 2. 7. 14

編集後記

平成2年度最終号をお届けします。本年も県博物館協会に多くの館・園が加入していただきました。3月末現在で県博物館協会加入館・園総数が106になりました。

平成3年度は東海地区博物館連絡協議会と東海三県博物館協会交流研修会の開催県となります。皆様のご支援・ご協力をお願いします。